

沖縄県のシンボル



【県花】 デイゴ

「デイゴ」は、マメ科の落葉大喬木で原産はインドです。

小枝の先端から花枝に総状花序をなし、深紅色で燃えたつように美しい花が3月から5月頃に咲きます。

深紅の花は、南国沖縄を象徴するのにふさわしく、観光資源として大きな効果があること、また幹材は、漆器の材料として用いられ経済的価値も高いという理由で「デイゴ」が県の花に選ばれました。



【県木】 リュウキュウマツ

「リュウキュウマツ」は、年を経るにしたがって美しい樹冠が広がり、木の高さは15mにも達します。

街路樹、風致樹、盆栽、防風林として広く利用されています。世界的にも沖縄独自のもので枝ぶりも美しく、増殖も容易で経済性に富んでいるという理由で県の木に選ばれました。



【県鳥】 ノグチゲラ

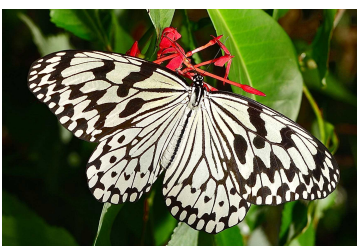
「ノグチゲラ」は、国の特別天然記念物に指定されています。沖縄本島北部山地にのみ生息する全長約30cmになるキツツキの仲間、雄は額から後頭にかけて赤色、雌は黒褐色です。

昭和30年に琉球政府が天然記念物に指定していること、分布域が狭いうえに生息数が少なく絶滅のおそれがあること、県の鳥として選ばれました。



【県魚】 タカサゴ (グルクン=方言名)

「タカサゴ」(方言名:グルクン)は、色彩豊かな25cm前後の美しい魚で、広く庶民に親しまれ、熱帯性で沖縄からインド洋にかけて分布しています。一年を通して漁獲され、本県の主要魚種であること、沖縄独特の追込網漁業で大部分が漁獲されること、沖縄では数少ない大衆魚として広く県民の食卓に普及しており、かまぼこの原料にも利用されていること、さらに、沖縄の海を連想させる美しい色彩を持っており、味も良いという理由で「タカサゴ」が県の魚に選ばれました。



【県蝶】 オオゴマダラ

「オオゴマダラ」は、中琉球が分布の北限にあたること、沖縄の自然の豊かさの象徴として自然環境の保全・再生の普及啓発を図ること、県内に広く分布する種であり、黄金のさなぎとともによく知られ、広く県民に親しまれていることから県蝶に選ばれました。